

石原外務大臣政務官によるステートメント（骨子）

ジュネーブ軍縮会議（CD）本会議

3月4日（火）

（CD）

- 唯一の多国間軍縮交渉機関であるジュネーブ軍縮会議（CD）において18年間交渉が実施されていない状況は非常に残念。
- 核軍縮を着実に進めていくためには、核保有国による一方的あるいは二国間の取組に加え、核兵器を持たない国の声を反映しながらマルチの取組を前進させることが重要。P6としての連携を強化しながら、最大限努力する考え。
- 兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）の政府専門家会合（GGE）の初会合が月末から当地で開催。日本もメンバーとして積極的に貢献。同時に、CDでのFMCTの早期の交渉開始も引き続き目指していく。
- 軍縮・不拡散は年々多くの困難に直面。これを打開するため、各国の政治レベルが一層関心と関与を深めるべき。

（我が国の取組）

- 岸田外務大臣は、本年1月に被爆地長崎で核軍縮・不拡散に関する政策スピーチを実施。核軍縮・不拡散の取組においては、核兵器が使用された際の人道的影響についての正確な認識を出発点としつつ、国際社会がますます多様化する核リスクに直面していることへの冷静な認識を持つことが重要。核軍縮を進めるためには、「核兵器のない世界」というビジョンを高く掲げつつ、そこに至る現実的かつ実践的な取組を積み重ねていくことが必要。これが「核兵器のない世界」への最短の道と確信。
- 私も大臣と共に核軍縮に積極的に取り組んでいる。今回の自分の来訪もその現れ。特に私は、核軍縮の重要性を若い世代に広めていくことが重要と確信。その観点から、昨年6月「ユース非核特使」制度を創設。また11月には、「国際スチューデントプレゼンテーション」という枠組みで軍縮・不拡散に取り組んでいる日本の高校生から価値のある提言を受け取った。若い世代のこうした取組が全世界レベルで広がっていくことを期待。

（軍縮不拡散イニシアティブ（NPDI））

- 核軍縮の取組を着実に進めていくには政治的推進力が不可欠。この観点から、志を共有する国々と立ち上げたNPDIは地域横断的かつ行動志向的なグループ。閣僚レベルでグループの活動にコミット。核戦力の透明性向上のための報告フォームなど具体的な提案を行い、軍縮・不拡散の推進に貢献。

- 4月には被爆地広島にNPT I 外相が集う。参加各国外相には被爆の実相に直接触れていただくとともに、核兵器の非人道性の問題を含めてしっかり議論し、有益な提案を行っていく考え。

(核兵器の非人道性を巡る問題)

- 我が国は、唯一の戦争被爆国であり、核兵器使用の非人道性を、身を以て経験。これまで我が国は、積極的に議論に貢献。
- 核兵器がもたらす人道的影響は、国際社会の核軍縮への取組における出発点となるべきものであり、いかなる核軍縮アプローチをとる際にも考慮されなくてはならない。議論が普遍的かつ開かれた形で発展することを期待。
- また、皆様には、ここ国連欧州本部に設置された原爆常設展も是非見てほしい。

(結語)

- 来年2015年は広島・長崎への原爆投下から70年。ここCDでの実質的な議論や、同年に開催されるNPT運用検討会議の成功等、こうした着実な取組が「核兵器のない世界」に向けた大きな一歩につながることを期待。